

京都府の地震活動

令和7年（2025年）10月

第 38 卷 10 号

京都地方気象台

目 次

震央分布図、概況	· · · 1
震央分布図、断面図	· · · 2
【地震一口メモ】津波情報等に活用する観測点の追加について	
～「南海トラフ海底地震津波観測網（N-net）沿岸システム」の活用を開始しました～	· · · 3

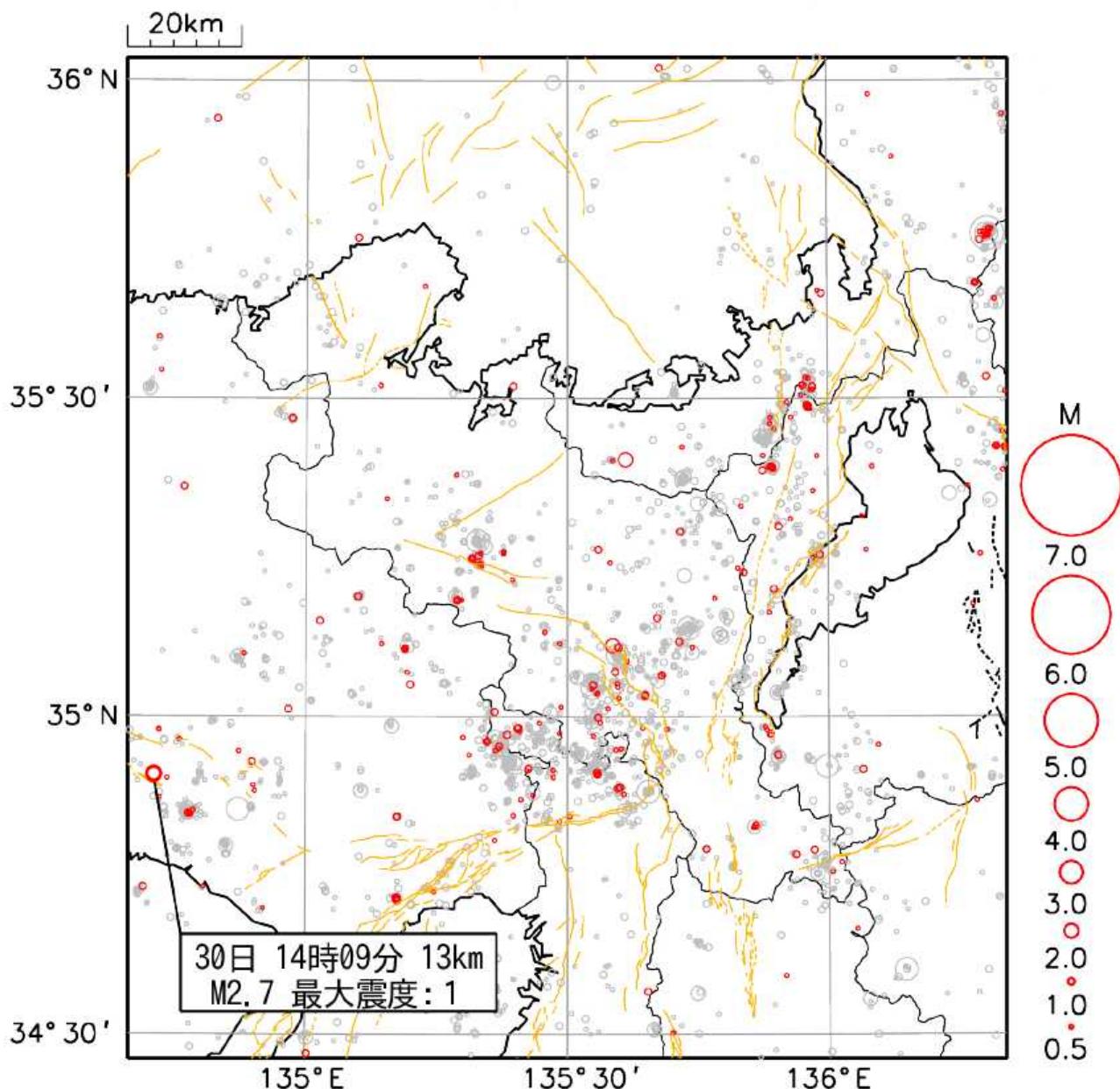
『京都府の地震活動』は、京都府及びその周辺の地震活動状況を解説するとともに、地震防災知識の普及に資するため、毎月刊行しています。

本誌に掲載した震源要素、震度データは、再調査された後、修正されることがあります。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを使用しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、EarthScope Consortium の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

震度データは、気象庁の震度計の観測データに併せて地方公共団体及び国立研究開発法人防災科学技術研究所から提供されたものを掲載しています。

震央分布図（マグニチュード0.5以上、深さ0～80km）



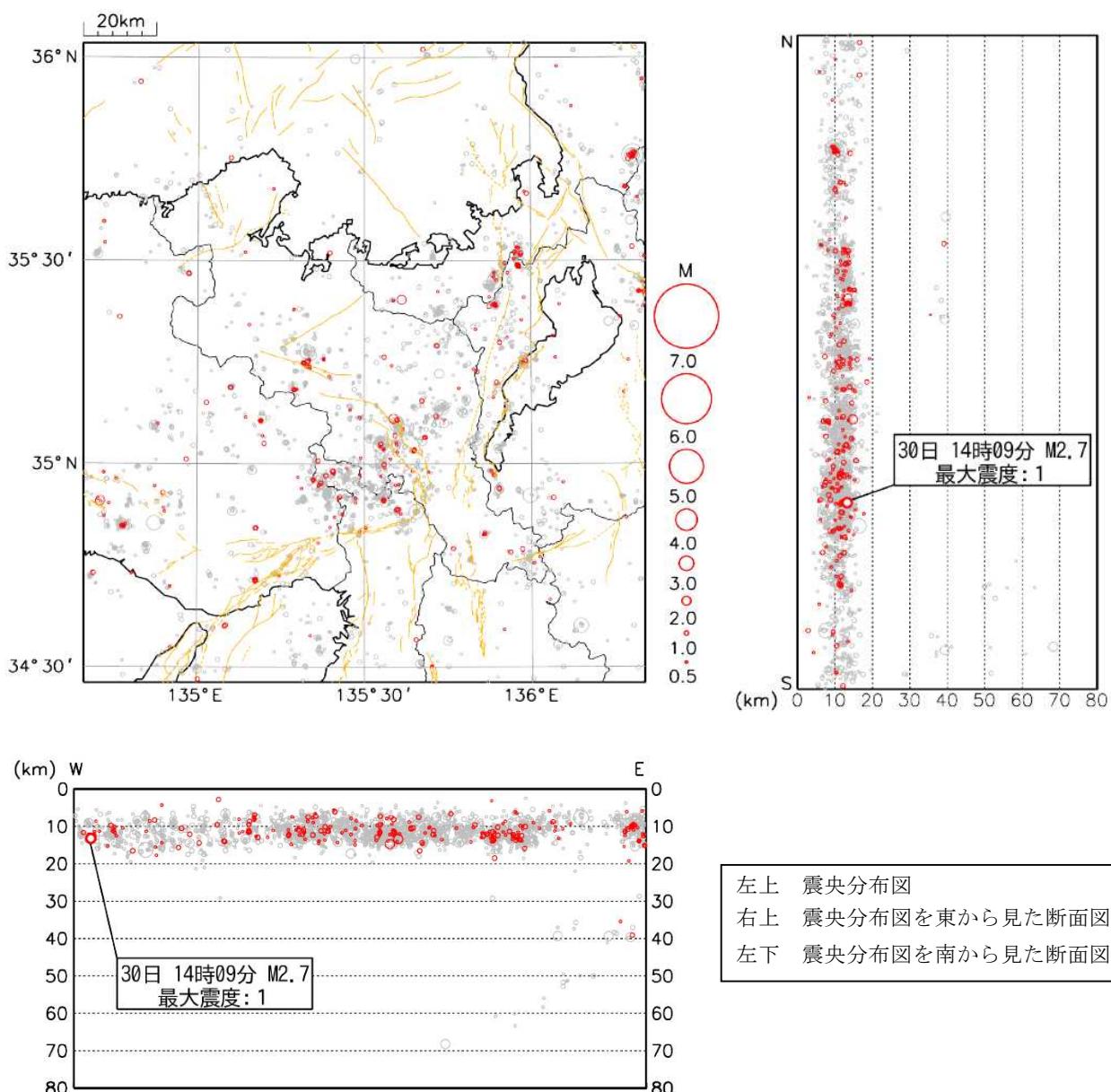
- ・(2024年11月1日～2025年10月31日、深さ0～80km、 $M \geq 0.5$)
- ・2025年10月の地震を赤く表示（総数238）
- ・震源を表す「○」の記号は、マグニチュード（M）の大きさに対応したサイズで表記。
- ・震度1以上を観測した地震には、日時、深さ、マグニチュード（M）、最大震度及び京都府内で震度を観測した地震について京都府内最大震度を付記。
- ・橙色の線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

概況

10月中、震央分布図内で観測したマグニチュード2.0以上の地震は3回、震度1以上の揺れを観測した地震は1回でした（9月はそれぞれ9回、1回）。

京都府内で震度1以上を観測した地震はありませんでした（9月は0回）。

震央分布図、断面図（マグニチュード0.5以上、深さ0～80km）



- ・(2024年11月1日～2025年10月31日、深さ0～80km、 $M \geq 0.5$)
- ・2025年10月の地震を赤く表示（総数238）
- ・震源を表す「○」の記号は、マグニチュード（M）の大きさに対応したサイズで表記。
- ・震度1以上を観測した地震には、日時、マグニチュード（M）、最大震度を付記。
- ・橙色の線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

深さ数km～約20kmに分布している地震は陸側のプレート内で発生した地震（地殻内地震）、深さ約30km～約60kmに分布している地震は、沈み込むフィリピン海プレート内の地震です。

【地震一口メモ】

津波情報等に活用する観測点の追加について

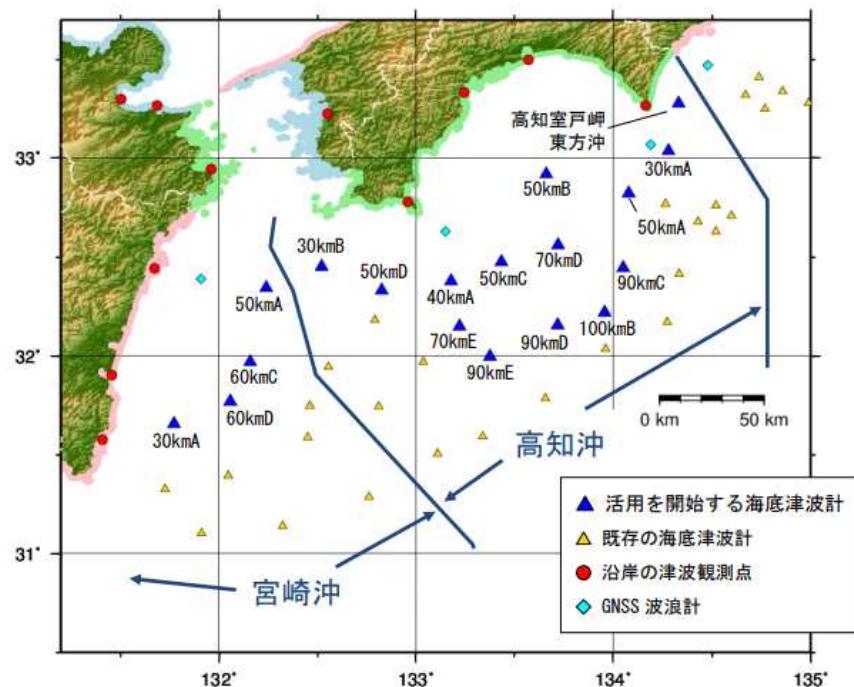
～「南海トラフ海底地震津波観測網（N-net）沿岸システム」の活用を開始しました～

気象庁では、令和7年11月20日から、国立研究開発法人防災科学技術研究所が高知県沖から日向灘に整備した「南海トラフ海底地震津波観測網（N-net）沿岸システム」の津波観測データの活用を開始しました。これにより、津波の検知が最大で約10分早くなり、津波情報等の発表の迅速化や精度向上が図られます。

国立研究開発法人防災科学技術研究所は、南海トラフ地震発生時の被害軽減や防災科学技術の発展に貢献することを目指し、南海トラフ地震の想定震源域のうち、それまで観測網が設置されていなかった西側（高知県沖から日向灘）の海底に、地震計と水圧計を備えた「南海トラフ海底地震津波観測網（N-net※）」を整備しました。N-netは令和6年に整備が完了した「沖合システム」と令和7年6月に整備が完了した「沿岸システム」から構成されます。※N-net: Nankai Trough Seafloor Observation Network for Earthquakes and Tsunamis

気象庁は、関係機関の協力も得て、沿岸の津波観測点や沖合に設置された海底津波計及び海底地震計の観測データを津波警報等及び津波情報の発表等に活用しており、「N-net 沖合システム」の津波観測データについては、令和6年11月21日から津波情報等へ活用しています。今般、「N-net 沿岸システム」の津波観測データの品質確認等を行い、準備が整ったため、令和7年11月20日（木）12時から津波情報等への活用を開始します。これにより、津波の検知が最大で約10分早くなるなど、津波警報等の更新及び津波情報の発表の迅速化や精度向上が図られます。また、津波情報において津波の観測値を発表する沖合の津波観測点は250地点から268地点に増加します。なお、N-net「沖合システム」、「沿岸システム」全体を津波情報へ活用することにより、津波の検知は最大で約20分早くなります。

津波情報等への活用を開始する海底津波計の分布図



※活用を開始する海底津波計の地点名称は「〇〇沖」を省略して記載しています。

気象庁ホームページ「津波情報等に活用する観測地点の追加について～「南海トラフ海底地震津波観測網（N-net）」沿岸システムの活用開始～（令和7年11月14日）」

https://www.jma.go.jp/jma/press/2511/14b/20251114_N-net.html